

II 大正期における盛岡市の災害

～『盛岡市史 第8分冊「大正期上」

「第5章 公安」「第3 災害」(P116～P120)』より～

大正に入り河川の氾濫少からず、家屋の浸水、道路の決壊少くなかったが、9年8月、10年には4月と7月、11年の7月、12年7月の5回の出水をみたが、11年7月を以て尤とする。

(大正9年8月の水害)

9年8月4日以来、10日まで降りつづいた雨は、各河川の増水を見、北上川の1丈2尺(約3.6m)、中津川の9尺(約2.7m)より、雫石川・築川等の増水あり、各方面の被害が少くなかった。木伏^{※1}・新山小路^{※2}・長町^{※3}・仁王^{※4}方面より、山岸方面に浸水家屋あり、山岸に1名の溺死者があった。夕顔瀬橋際派出所は巡查児童共建物とともに押流されたが、幸に溺死をまぬがるゝことを得た。仁王赤川^{※5}氾濫のため原別邸、桜城校うら手、新築地^{※13}一带家屋の半没したものが数軒に及んだ。なお中津川河岸は秀清閣裏の石垣2間半余(約4.5m)の欠潰あったのみに止まったことは不幸中の幸であった(毎日紙9.8.11)。

(大正10年4月の水害)

10年4月には3日以来降り出した豪雨は折柄^{あられ}霰と寒風を混り吹き荒れ大暴風となり、山間の雪解水に各河川氾濫し、1丈7、8尺(5.2m～5.5m)に上った。北上川の激流は茅町^{※6}佐々木某のうら手の石垣を5、6間(9.1m～10.9m)欠潰せしめ、木伏^{※1}方面は例によりて被害あり、浸水150戸に及んだ。ほか多賀^{※7}・神子田方面・川原町^{※8}等の浸水があった。中津川の増水は1丈(約3.0m)に及び、山岸うらの堤防20余間(約36m)欠潰した。一方築川は9尺(約2.7m)、雫石川は1丈(約3.0m)の増水にとり、三ツ家^{※9}方面20間(約36m)以上堤岸崩れ、沢田橋^{※10}一部流出したが、工兵隊の活動により落橋をまぬがれた。損害の甚しきは杉土手^{※11}方面の製材所で、開運橋左岸にある専売局盛岡出張所は、臨時仮入庫の葉烟草470俵の中100俵使用不能となり、作業工場も浸水のため、一時作業を中止するの止むなきに至った。

(大正10年7月の水害)

10年7月7日朝よりつづいた雨は8日に至り霽れたが、市附近一帯の河川増水し、ことに明治橋附近は6尺8寸(約2.1m)、雫石川は8尺余(約2.4m)の増水を見、消防組員在郷軍人等協力して防止につとめたが、県道を去る1間半(約2.7m)の処まで堤防15間(約27m)欠潰し、沢田橋^{※10}は中央の2桁流失し、厨川方面は半壊家屋1戸あり、雫石方面は1戸の流失家屋を見るに至った。

(大正11年7月の水害)

11年7月30日夜より豪雨襲来し、31日夜に至り、各河川急激に増水し、市街至るところに汎濫し、交通困難におちいった。下小路^{※12}・四ッ家^{※14}・三戸町^{※15}・上田組町^{※16}一帯は街路泥沼となり、赤川^{※5}の四ッ家橋は落橋した。雫石川は約10尺(約3.0m)の増水で、沢田橋^{※10}落ち、30軒の県道約10間(約18m)崩壊し、厨川・三ッ家^{※9}・30軒等一帯に汎濫したので、厨川消防組は警鐘を乱打して各員を召集し、崩壊箇所[※]に土俵数100を積みて防禦につとめた。濁流は鉄路線路を越えて下厨川を襲い、平戸^{※17}附近に溢れ、岩手木材会社の住宅長屋30戸は床上約3尺位(約90cm)まで浸水し、住民はいずれも避難した。古川端^{※18}大沢川原一円は沼田と変じ、正午に至るも減水の模様なく、大沢川原新道は交通不能に陥った。

北上川明治橋下に於ては、増水1丈3尺(約3.9m)に及び、杉土手^{※11}製材所附近より明治橋まで床上2尺(約60cm)の浸水家屋数十戸に及び、川原町^{※8}円光寺より神子田に至る沿岸、ことに万日附近は床上34尺(約90cm～1.2m)の浸水のみ、老幼円光寺に避難したが、同寺の墓石大半没し、正門附近にても1尺余(約1.0m)に及んだ。31日に至り、各河川約5尺(約1.5m)の減水をみたが、午後6時半に至り、また沛然たる猛雨あり、市民再び危懼し、厨川・明治橋附近みな避難の準備にとりかかったが、8時に至り雨おさまり、ようやく安堵の思ひをなした。9時に至り北上川は8尺(約2.4m)より、翌1日午前9時に至り5尺位(約1.5m)となったが、古川端^{※18}は減水せず、大沢川原新道はなお膝を没するほどであった。

北上川明治橋下は最高13尺(約3.9m)、浸水家屋は下小路^{※12}・四ッ家^{※14}・仁王^{※4}・三戸町^{※15}・長町^{※3}・大沢川原^{しんこく}・新穀町^{※20}・仙北町・青物町^{※21}一部、30軒等各方面一帯560戸に及んだが、幸に人畜の死傷なかったことは、1, 8, 6, 7, 10の消防組の出動によるところ多かつた(毎日, 11, 8, 1-2)。

(大正12年7月の水害)

12年7月の洪水は、22日朝よりの豪雨で、八幡町片原^{※22}裏の桜川は4尺(約1.2m)の増水で汎濫し、上小路^{うわ}^{※23}方面より神子田方面一体は泥海と化し、浸水家屋は100余戸に達した。各町の下水溝も溢水し、八幡町の40戸、新馬町^{※24}の67戸をはじめ、鉦屋町・新築地^{しんちくち}^{※13}の床下浸水があった。仙北町方面は北上川の増水のため、青物町^{※21}より本宮に通ずる土手破壊し、仙北町方面の浸水も多数あった。中津川もまた増水し、河岸の石垣長さ15間(約27m)、巾5尺(約1.5m)崩壊し、消防員70余名の応援を得、附近樹木を切り、崩壊の箇所[※]に埋め、防衛につとめた。例の赤川堰^{※5}は5尺(約1.5m)の増水で、処在汎濫し、仁王^{※4}・赤川^{※5}・大沢川原方面の被害あり、上田方面は高松池溢れ、余波梨木町に及んだ。23日午後雨おさまったが、24日午前4時よりまたまた土砂降りとなり、午後1時に至った。北上川は開運橋下約5尺

(約 1.5m) , 明治橋下は10尺 (約 3.0m) の増水であったが、26日午後に至り、漸次減水したが僅に1尺 (約30cm) に止まった。雫石・中津両川もまた退勢を辿っている (毎日 7, 24-27) 。

大正5年4月12日上ノ橋上流下小路^{※12}さき護岸石垣10間余 (約18m) 俄然崩壊した。増水は石垣の岸を洗う程度にすぎなかったが、崩壊の原因は明かでない。なお10年4月の洪水に際して、市会より北田市長に対し質問があった。これに対し市長は、「護岸工事はある場所はセメントを用いて練り畳みとし、ある場所はセメントを用いず空畳み」としたところもある。「水勢の最も猛烈に衝るところはセメントを用い、其他は空畳みとして」あるが、「昨年の夏の洪水や、今回の出水によりて崩壊された箇所は多く、否全部がこの空畳みの場所である。之は工事当時の水流の関係が其の後に於て変化したものと認める外はない」。完全な護岸にするためには市現在の経済は許せないと弁じている。

また11年7月の洪水については大沢川原有志は、原敬別邸の正門3尺余 (約90cm) 水底に没し、この方面一帯の浸水に対し、原邸前赤川堰^{※5}の北上川に排水する洞門、開運橋東手の洞門、日影門外小路附近の赤川堰^{※5}に対し、修理を市に請願している。^{もつと}尤も被害の甚大なる開運橋通り後手の家屋は洞門の一部の破壊のため、床下約2坪陥没し、深さ1丈余 (約 3.0m) の大穴となり、附近の家屋尽く傾斜し、いまにも倒壊せん状態であったと云う。

< 本文中の地名等について >

-
- ※1 木伏 現在の盛岡駅前北通。北上川右岸の夕顔瀬橋から旭橋にかけての地域
 - ※2 新山小路 現在の中央通三丁目地内
 - ※3 長町 現在の長田町方面
 - ※4 仁王 現在の大通三丁目から中央通二丁目・三丁目、本町通二丁目・三丁目にかけての地域
 - ※5 赤川 (赤川堰) かつて、現在の仁王小学校付近、盛岡中央郵便局西側など市内中心部を流れていた堰
 - ※6 茅町 現在の材木町地内。材木町通の中ほどから夕顔瀬橋方面にかけての地域
 - ※7 多賀 現在の清水町から南大通三丁目にかけての地域
 - ※8 川原町 現在の南大通三丁目から鉾屋町にかけての地域
 - ※9 三ッ家 雫石川左岸の現在の中屋敷町方面
 - ※10 沢田橋 盛岡と太田地区は、江戸初期から渡し船によって通行がなされていたが、明治43年に現在の太田橋近に「沢田橋」が架橋された。その後、昭和10年にコンクリート橋に架け替えられた。現在の太田橋は、昭和61年に架けられた橋である。
 - ※11 杉土手 現在の清水町、南大通三丁目地内。北上川左岸沿いの地域
 - ※12 下小路 現在の愛宕町地内。中津川右岸の盛岡中央公民館から富士見橋にかけての地域
 - ※13 新築地 現在の開運橋通地内。北上川左岸の開運橋際のあたり
 - ※14 四ッ家 現在の本町通二丁目地内。仁王小学校から岩手医科大学にかけての地域

- ※15 三戸町 現在の本町通三丁目，中央通二・三丁目地内。盛岡税務署から中央通付近にかけての地域
- ※16 上田組町 現在の上田二・三丁目地内。盛岡第一高等学校付近から国道4号付近にかけての上田通りかいわい
- ※17 平戸 現在のJR盛岡駅付近
- ※18 古川端 「古い北上川の側」の意。北上川は，かつては現在の開運橋の北側から大通や菜園方面を流れ，農林会館付近で南下し，盛岡城西側に隣接し，岩手女子高等学校付近で中津川に合流していたが，盛岡藩第4代藩主南部重信による付替工事が1673（寛文13）年から1675（延宝3）年まで行われ，現在のルートとなった。
- ※19 万日 現在の鉾屋町地内。旧盛岡市立病院かいわい
- ※20 新穀町 現在の南大通二丁目，清水町地内。岩手銀行惣門支店付近から盛岡信用金庫六日町支店付近にかけての地域
- ※21 青物町 現在の仙北一丁目地内。明治橋際の「徳清」付近から西側の東北本線付近にかけての地域
- ※22 八幡町片原 現在の八幡町かいわい。八幡町に直交する片側の町並を「片原町」と呼んでいた。
- ※23 上小路 現在の茶畑二丁目，中野二丁目地内。らんかん児童公園付近から中野小学校入口交差点付近にかけてのかいわい
- ※24 新馬町 現在の南大通二丁目，清水町，肴町地内。東北銀行南大通支店から毘沙門橋方面にかけての地域